

箕輪中学校実践例紹介

箕輪中学校 松島 利之

2学年「働くとは・・・」

1年生3月末から4月 職業調べ

2年生では、春休みから4月にかけて1人1人職業について調べたことを新聞形式にまとめ、教室に掲示し、仕事についての関心を高めました。



掲示された職業新聞

5月18日「キャリア教育講演会」

この講演会は、箕輪町キャリア教育推進協議会のご協力を毎年いただいて実施しています。今年度は、コロナウィルス感染予防のため、オンラインでの実施となってしまいましたが、「K O A株式会社の南部高幸さん」「伊那谷フィールの田中聡子さん」のお二人の仕事に対する思い、生き方に関する考えをうかがいました。熱く語るお二人の言葉から、「仕事」というものをより身近に感じ、働くことへの理解を深め、自分の生き方を考えることができました。



- ・ KOA という会社がこんなに世界のためにがんばっていることを知ってすごいと思いました。そして私たち中学生時代にできることがたくさんあるということを教えてもらったので、これから将来のために意識していきたいと思いました。あと1歩で届くのなら、その1歩をがんばって踏み出したいと思いました。
- ・ 私には小さい頃から看護師になりたいという夢があります。けどその夢を叶えるために今からできることって正直わからなくて悩んでいました。なので、今日のお話はすごく勉強になりました。私は授業のときも部活の時も教えられたことをそのまま受け取るだけでなぜ?と考えることができないし、それができるようになったらもっと成長できるのではないかなと思いました。これからは心がけていつでも疑問をもてるようにして、その疑問を先生に自分から質問できるようにしてたくさんのことを学びたいです。
- ・ 田中さんのお話を聞いて心に残った言葉は「ワークライフバランス」です。女性は、子育てなどもあって仕事あまりできないと思っていたから仕事と子育てなどの家事のバランスが大切なのだと思いました。また、自分の“好き”や“やりたい”ことも仕事にしていいたいのだと知り、驚きました。仕事探しは難しそうだけど自分の“好き”から探していきたいです。
- ・ 田中聡子さんの講演を聞いて、医者だとか会社員だとかいう肩書きだけが仕事じゃなんだなということを感じました。決まった職業について働くだけではなく、フリーランスなどの仕事の仕方などもあるということを知って今までどの職業に就くかしか考えていなかったけど講演をきいて、自分の視野が広がりました。この講演を聞くことができてとても良かったです。
- ・ キャリアは生き方という言葉に、キャリアは職業選びだけではなく、その一生が含まれているのだなと思いました。私は音楽の先生になりたいと肩書で決めていたけれど音楽がやりたいという夢で良いと思いました。

10月25日（月）「わくワークみのわ」

例年は夏休みが開ける前の1週間に、各事業所にうかがい、本格的な仕事に取り組ませていただく「職場体験学習」を行っていますが、新型コロナウイルス感染症の影響で、昨年度、今年度と「職場体験学習」を実施することができませんでした。

そんな中でも「実際の仕事」を少しでも体験できないかと考え、箕輪町キャリア教育推進協議会のご協力のもと、この「わくワークみのわ」を企画したところ24もの事業所の方々にご協力をいただき、当日は、各ブースで体験・実践型ワークショップを行っていただいたり、パネルや製品などを展示していただいたりしました。



【生徒の感想から】

自分はwebなどを使って調べたことはありましたが、直接今日のように仕事について聞くのは初めてでした。自分は少し興奮していて、いろいろなところへ行きたくさん話を聞きました。その中で特に印象に残ったのは赤羽鉄工所の人の話です。30～40年もやってきた職人の思いが伝わってきて、とてもためになりました。自分は将来、赤羽さんのような仕事をやりたいです。

井口モータースさんのブースでは、ダイハツのオープンカーが来ていて3気筒エンジンのことも教えてもらい面白かったです。また車の話だけでなく仕事の難しさや、やっていて楽しいことなどもたくさん聞いたのでこれから役立てていきたいです。

私が一番心に残ったのは「菓匠 Shimizu」さんでした。世界には、私たちと同じ世代の子どもたちが働いている。人身売買をされていることを知ってびっくりしました。今私たちがこのように学校で生活できるのが当たり前じゃないんだと改めて思いました。そして働くことは、たくさんの人、世界のためになるということが学びました。

11月8日（月） 第8回箕輪町キャリア教育フォーラム

小学生、中学生、高校生、企業の代表者が集まり行われる箕輪町キャリア教育フォーラム。このフォーラムに、中学校では例年2年生が参加しています。箕輪町キャリア教育フォーラムでは、箕輪北小5年生の「しらけもちづくりを通して学んだこと」箕輪中2年生の「キャリア講演会、わくワークみのわを通して学んだこと」について発表があり、地域と関わり・自分の生き方等について、学び合うことができました。後半は、企業の方々も一緒に11のグループに別れ、ディスカッションを行い「働くことの意味や目的、仕事のやりがいなどについて考えました。



【生徒の感想から】

「パンをつくるのは、すべての作業を1人でやっているのではなく、たくさんの人が関わって1つのものが成り立っている。これが仕事。様々な人や地域などに支えてもらって仕事ができている。」という話が印象に残りました。

サエラさんに質問すると、ネイルが完成して、お客さんの笑顔、お客さんと話すだけでも仕事にやりがいが出ると言っていました。今回改めてやってみると、仕事をするのは自分のためでもあるし、人を楽しませるように！という思いがあるのかなと思いました。

コロナ禍で例年のような職場体験学習はできませんでしたが、工夫を凝らしていただいたおかげで、生徒たちも楽しそうに「実際の仕事」に触れることができました。また仕事に触れるだけでなく、普段、親や教師以外の大人と関わる機会が少ない生徒達が、たくさんの大人の生き方や考え方に触れ、自分の生き方を考える学習は、

3 学年 「ふるさと箕輪学への取り組み」

3年生では、地域とのつながりを大事にしつつ、箕輪のひと・もの・ことと関わりながら、体験・調査活動を通して、「自分で考えて動くクリエイティブな資質」を養い、ふるさと箕輪に誇りを持ち、地元箕輪を大切に思う心情を育むことを目的にふるさと学習「箕輪学」を行っています。これからの活動を通して、地域の皆様のさまざまな価値観や生き方に触れていくことで、生徒一人ひとりのキャリア形成につなげていきたいと思います。今年度の各クラスのテーマは以下の通りです。

【1組】箕輪町の観光業に携わる方々を笑顔にする一新スイーツ開発とPRフォトカタログ制作

① 新スイーツ開発



夏休みに調理班が地域の方と試作を重ね完成！箕輪町のりんごをPRするフィナンシェを作りました写真：「ウトワリ」にて

②PRフォトブック制作



中学HPにアップロード予定です



全国レベルの伊那西高写真部のみなさんを講師に撮影を学び、箕輪町の観光地や飲食店を取材しまとめました。

【2組】箕輪町のよさを発信するために、箕輪の野菜でピクルスを作って販売しよう



収穫（きゅうり・ピクルス） ピクルスの製造（「みのわ加工」にて）

ふきはら祭や参観日、「みのわテラス」で販売。
約 450 セットを完売！

【3組】箕輪町の魅力を長野県に発信しよう（CM 制作）

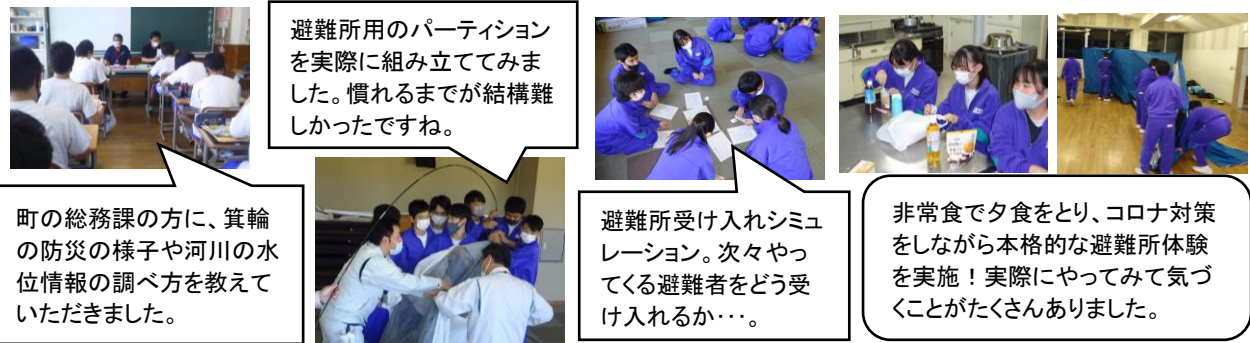


今年度は45市町村から94作品の応募がありました。3組の作品は残念ながら最終審査には残りませんでしたが、番組内で作品が流れた際には大興奮でした！撮影をする際には町の方からの応援もあり、嬉しかったです!!!



【4組】わが町箕輪の防災を考えよう

「もし、この町で大きな災害が起こり、本当に避難所で生活することになったら？」…中学生が実体験を通して学んだことを家族や地域に発信し、「防災意識の強い町」づくりを目指しました。



町の総務課の方に、箕輪の防災の様子や河川の水位情報の調べ方を教えていただきました。

避難所用のパーティションを実際に組み立ててみました。慣れるまでが結構難しかったですね。

避難所受け入れシミュレーション。次々やってくる避難者をどう受け入れるか…。

非常食で夕食をとり、コロナ対策をしながら本格的な避難所体験を実施！実際にやってみて気づくことがたくさんありました。

【5組】みのわの未来を照らす希望の星になろう



修学旅行で箕輪町を紹介するパンフレットを配布しました。マンホールのふたのデザインと併せて箕輪町町役場に報告と提案に行きました。



給食室の廃油からエコキャンドルを作って販売しました



エコキャンドルで校庭に文字を灯しました。



マンホールのデザイン



モザイクアート完成図

【6組】郷土愛 ～持続可能な社会へ～

米作りを通して、愛する箕輪町についてPRしました。



↑ 自分達の手で田植えをしました ↑ 自然乾燥により、甘さが強いお米に ↑ 銀座NAGANOで販売中！

【7組】クリアファイルを作製して箕輪の自然をPRしよう

↓ 4月から箕輪町の各地で写真撮影



↑ 完成したクリアファイル

保護者懇談会にて販売

800部完売！！



生徒の感想

- ・作物一つ作るだけでも、衛生面・日光の当たり具合・作物と作物との間の距離など、どうすれば美味しい作物が収穫できるかを一つ一つの作物に違った方法で育てていてすごいなと思った。
- ・箕輪町役場の方に来て、箕輪町の方を思って行動していてカッコいいと思った。
- ・広い田んぼをほとんど一人で扱っているところがカッコよかったです。
- ・災害が起こって避難したときに、役場とかの人は避難所に来て手伝うことができないので、避難所をどのように使うかを自分たちが率先して考えて、実行できるようにしたい。
- ・地域の人と一緒に米作りをやって、自分も人のために動いたり働いたりできるような人になりたいと思った。
- ・活動を通して、支えてくれた人がいっぱいいることに気づいた。その人達のためにも、箕輪町をよりアピールできたらなと思っている。そんな人達がいてくれるのも箕輪の良さ。私もそんな大人になりたいと思った。

学習をふり返って

ここにあるように、「すごい」とか「カッコいい」という表現がいくつも見られました。子どもたちは、地域で活躍している大人にあこがれを持つようになり、生き方の一つのモデルを獲得しています。これはキャリア教育的に言えば「夢や希望、憧れる自己イメージの獲得」であり、キャリア形成していく上で非常に重要なことといえると思います。

3年生は学校生活では、自分たち自身が生徒会、部活動などの先頭に立って運営してきました。このことはキャリア発達の言えば、人間関係形成能力や将来設計能力、特に他者理解と物事の段取りをする力が育成される活動です。このような経験を子どもの中に意識化し、価値づけてあげるのが、我々教師の役割であり、キャリア発達が順調に行われるには、教師、保護者、地域の大人などの姿が大切だと改めて感じました。